

韓国でアフリカ豚熱(ASF)感染急増！

防疫対策の再確認と徹底を！！

○2023年12月、日本への往来がある韓国釜山のフェリー港付近で、アフリカ豚熱に感染した野生イノシシが初めて確認。

○アフリカ豚熱ウイルスは、伝染力や消毒にも強く、野外の死体でも数ヶ月単位で生存。

○現在、韓国釜山の野生イノシシから二桁を超える感染が拡大し、日本に侵入するリスクは非常に高い状況。

○2月10日から旧正月の春節を迎え、アフリカ豚熱発生国から訪日客数が増えることから、人や物の動きが一層活発になることが予想。

○国は、検疫を強化して、「不当畜産物の持ち込みへの監視強化」、訪日客に対する「養豚場へ近寄らない」など周知強化を徹底。

○県は、捕獲及び死亡した野生イノシシの豚熱とアフリカ豚熱検査を実施し、監視を強化。

○養豚農家の皆さまには、これまで以上に、飼養衛生管理基準遵守の強化に努めていただくため、

○農場内にアフリカ豚熱ウイルスを侵入させないための、消毒の徹底、必要車両のみの入場、入場車両の消毒の徹底を強化。

○豚舎への侵入防止対策である、防鳥ネットの点検・補修、専用衣服・長靴着用を徹底。

を図って下さい。 異常を感じたら家畜保健衛生所へ連絡！

山梨県東部家畜保健衛生所

電話：055-262-3166／FAX：055-262-3108 夜間・土日・休日の連絡先：090-5535-8005

土日・休日の連絡先：090-5544-7868

ASFには有効なワクチンや治療法がなく、発生した場合の畜産業界への影響は甚大です！！人・車両・野生動物の出入によるウイルス侵入に最大限の警戒を！！

飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、自分の農場・家畜を疾病から守りましょう！

※野生動物の侵入防止対策

- 飼養衛生管理区域への野生動物侵入防止
- 豚舎周辺の除草、木の伐採
- 豚舎内外の整理、整頓、清掃
- 飼料タンク下等エサこぼれ防止
- 堆肥舎、資材庫へも野生動物侵入防止
- 豚舎内のネズミの駆除
- 豚舎開口部への防鳥ネットの設置

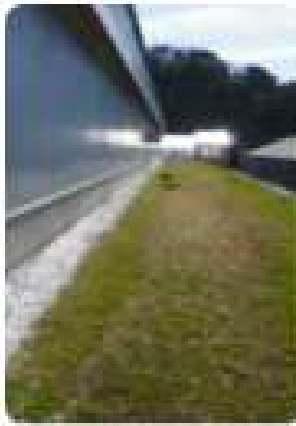
※消毒の徹底

- 農場や豚舎の出入り口、周辺の消毒
- 農場に出入りする工事車両や農場の従業員の車両を含めた全ての車両の洗浄、消毒の徹底

※出荷の際の消毒に注意

- 出荷車両内外（特に運転席）の消毒
- 運転手の更衣や長靴の履き替えを徹底

① 野生動物対策



農場を囲う柵を設置するとともに、破損などが無いか定期的に点検。

農場辺縁を含め敷地内の草刈りや枝の剪定を行い、野生動物が隠れる場所を作らない。

死亡家畜は野生動物を誘引しないよう適切に保管。

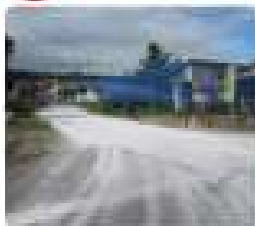
養豚場の

重点対策

MAFF
農林水産省



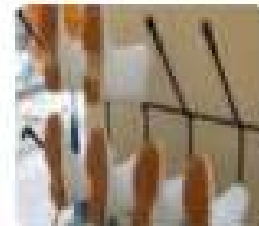
② 農場内や進入車両の消毒



畜舎周囲・農場外縁部に定期的に石灰を散布。

車両の洗浄・消毒も忘れない。
車体、タイヤ周りや滴の汚れを
しっかり落とす。

③ 更衣・履き替えの徹底



洗浄・消毒された衛生的な衣服や長靴を用意。

長靴は履き替えを徹底し、使用後は洗浄してから消毒し、消毒薬は定期的、または汚れた都度交換。



豚肉・豚肉製品を絶対に豚に与えない・捨てない！

従業員にも周知・徹底を！



アフリカ豚熱

そこまできています

発生を未然に防ぐことが
日本の養豚を守るために極めて重要です。

皮膚の出血や全身のチアノーゼが
特徴。他には食欲不振・沈鬱等。

農場へのウイルスの侵入を防ぐために、

すぐに農場の 衛生対策を再点検！

- ▲ 致死率はほぼ**100%**
- ▲ 中国で発生による死亡・殺処分により
豚の飼養頭数が**4割減少**
- ▲ 周辺農場も殺処分の可能性

▲ 有効な治療法や
ワクチンはない



!

2019 日本から50kmしか
離れていない釜山で
続発中！

約50km

釜山

2024 港や空港付近で発生
が続いています。

金海国際空港
新千歳、成田、関西国際、
中部国際、松山、那覇

釜山港国際旅客ターミナル
仁川、暹羅、下関、大邱

2. アフリカ豚熱の感染拡大：韓国での感染拡大（2019年～）

